

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品の名称	業務用ゴキジェット（販売名：ゴキジェット JJ）
整理番号	K66231-0
会社名	アース製薬株式会社
住所	〒101-0048 東京都千代田区神田司町二丁目 12 番地 1
担当部門	開発部
電話番号	03-5207-7464
FAX 番号	03-5207-7485
作成／改訂年月日	2022 年 2 月 2 日 作成

2. 危険有害性の要約

GHS 分類		
物理化学的危険性	エアゾール	区分 1
健康に対する有害性	皮膚腐食性／刺激性	区分 2
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 3（麻酔作用）
	誤えん有害性	区分 1
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期（急性）	区分 3
	水生環境有害性 長期（慢性）	区分 3

上記で記載がない危険有害性は、分類できないか区分に該当しない。

GHS ラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語	危険
危険有害性情報	H222 極めて可燃性の高いエアゾール
	H229 高压容器：熱すると破裂のおそれ
	H315 皮膚刺激
	H336 眠気又はめまいのおそれ
	H304 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
	H402 水生生物に有害
	H412 長期継続的影響により水生生物に有害

注意書き

【安全対策】

- P210 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
- P211 裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。
- P251 使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
- P264 取扱い後は手をよく洗うこと。
- P280 保護手袋を着用すること。
- P261 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレートの吸入を避けること。
- P271 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
- P273 環境への放出を避けること。

【応急措置】

P302+P352 皮膚についた場合は、多量の水で洗うこと。
 P321 特別な処置が必要である。
 P332+P313 皮膚刺激が生じた場合は、医師の診察／手当てを受けること。
 P362+P364 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
 P304+P340 吸入した場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 P312 気分が悪いときは、医師に連絡すること。
 P301+P310 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。
 P331 無理に吐かせないこと。

【保管】

P410+P412 日光から遮断し、40℃以上の温度にばく露しないこと。
 P403+P233 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
 P405 施錠して保管すること。

【廃棄】

P501 内容物／容器を自治体の規則に従って廃棄すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物
成分	イミプロトリン 0.476w/v%
	1号灯油
	LPG
	DME
	他1成分

4. 応急措置

吸入した場合	新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪いときは、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	直ちに、汚染された衣類をすべて取り除く。皮膚を流水で洗う。 必要に応じて医師の診断を受ける。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。 清浄な水で数分間目を洗浄した後、直ちに眼科医の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	水でよく口の中を洗浄する。直ちに医師の措置を受ける。 揮発性液体なので、吐き出させるとかえって肺への吸引等の危険が増す。 直ちに医療措置を受ける手配をする。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	泡（初期火災）、二酸化炭素、粉末
使ってはならない消火剤	情報なし
火災時の特有の危険有害性	エアゾール製剤であり、着火後爆発の危険性があるため、直ちに避難する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。 作業の際には保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉じん、ガスを吸入しないようにする。
------------	--

環境に対する注意事項	流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法 及び機材	吸着剤（おがくず、土、砂、ウエス等）で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取る。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

容器を転倒、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の乱暴な取扱いをしてはならない。

安全取扱注意事項

定められた使用方法を守ること。

人体に向かって噴射しないでください。また噴射気体を吸入しないでください。

40 秒以上連続噴射しないでください。

冷蔵庫の裏などの噴射ガスが溜まりやすい場所に噴射するときは、使用量（隙間には約 1～2 秒）を守り決して過剰に噴射しないよう注意してください。可燃性ガスが燃焼するおそれがあります。

万一身体に異常が起きた場合は、直ちに本品がピレスロイド系の殺虫剤であることを医師に告げて、診療を受けてください。

今までに薬や化粧品等によるアレルギー症状（例えば発疹・発赤、かゆみ、かぶれ等）を起こしたことのある人は使用前に医師又は薬剤師に相談してください。

定められた使用方法・使用量を厳守してください。

皮膚、飲食物、食器、子供のおもちゃ、観賞魚、小鳥などのペット類、飼料、観賞植物にかからないようにしてください。

アレルギー症状やかぶれなどを起こしやすい体質の人は、薬剤に触れたり、吸い込んだりしないようにしてください。

火気（ガスコンロ、湯沸器、ストーブ、ファンヒーター等）のないことを確認のうえ、使用してください。

噴射中は噴射する人以外の入室を避け、噴射後は室内を十分換気してから入室してください。

薬剤が皮膚についたときは、石けんを用いてよく洗ってください。

換気してください。

火気と高温に注意

高圧ガスを使用した可燃性の製品であり、危険なため、下記の注意を守ること。

- ① 炎や火気の近くで使用しないこと。
- ② 火気を使用している室内で大量に使用しないこと。
- ③ 高温にすると破裂の危険があるため、直射日光の当たる所やストーブ、ファンヒーターの近くなど温度が 40 度以上となる所に置かないこと。
- ④ 火の中に入れないこと。
- ⑤ 使い切って捨てること。

保管

安全な保管条件

直射日光（車の中等）や火気を避け、子供の手の届かない涼しいところに保管すること。

安全な容器包装材料

製品使用容器に準ずる。

8. ばく露防止及び保護措置

保護具

必要によりマスク、保護手袋／眼鏡／服等の適切な保護具を着用

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	エアゾール製剤、原液は液体
色	わずかに特異な濁った液体
臭い	わずかに特異なにおいを有する
沸点又は初留点及び沸点範囲	情報なし
可燃性	情報なし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	情報なし
引火点	96℃（原薬）
自然発火点	情報なし
分解温度	情報なし
p H	情報なし
動粘性率	情報なし
蒸気圧	情報なし
密度及び／又は相対密度	情報なし
相対ガス密度	情報なし
粒子特性	情報なし

10. 安定性及び反応性

反応性	反応性なし
化学的安定性	製品として3年間の安定性が推定されている。
危険有害反応可能性	情報なし
避けるべき条件	熱（特定温度以上の加熱など）、圧力、衝撃、静電放電、振動、他の物理的応力など
混触危険物質	情報なし
危険有害な分解生成物	情報なし

11. 有害性情報

急性毒性 経口毒性（LD50 値）	ラット 雄／雌 5g/kg 以上
皮膚腐食性／刺激性	区分2
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分に該当しない
呼吸器感作性又は皮膚感作性	区分に該当しない
生殖細胞変異原性	区分に該当しない
発がん性	区分に該当しない
生殖毒性	区分に該当しない
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分3（麻酔作用）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分に該当しない
誤えん有害性	区分1

12. 環境影響情報

製品としての環境有害性情報：製品としての情報なし	
生態毒性	水産動物への影響（原体データ） （イミプロトリン） コイ：LC ₅₀ （48 h）154 µg/L オオミジンコ：EC ₅₀ （48 h）0.051 mg/L

	緑藻：ErC ₅₀ （0-72 h）＞ 7.8 mg/L
残留性・分解性	情報なし
生態蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	製品に記載された方法や内容物を各自治体で定められた規則に従って廃棄すること。
汚染容器・包装	空容器やフィルム等は各自治体で定められた規則に従って廃棄すること。

1 4. 輸送上の注意

国連番号	UN1950
品名	エアゾール
国連分類	2.1
副次危険性	－
容器等級	－
国内規制がある場合の 規制情報	情報なし

1 5. 適用法令

化管法	該当しない
労働安全衛生法	該当しない
毒劇物取締法	該当しない
化審法	該当しない
消防法	危険物 第四類 第三石油類 非水溶性
薬機法	防除用医薬部外品
農薬取締法	該当しない
高圧ガス保安法	可燃性ガス

1 6. その他の情報

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたもので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。